

⊕ 公園のリ・デザインの手引き

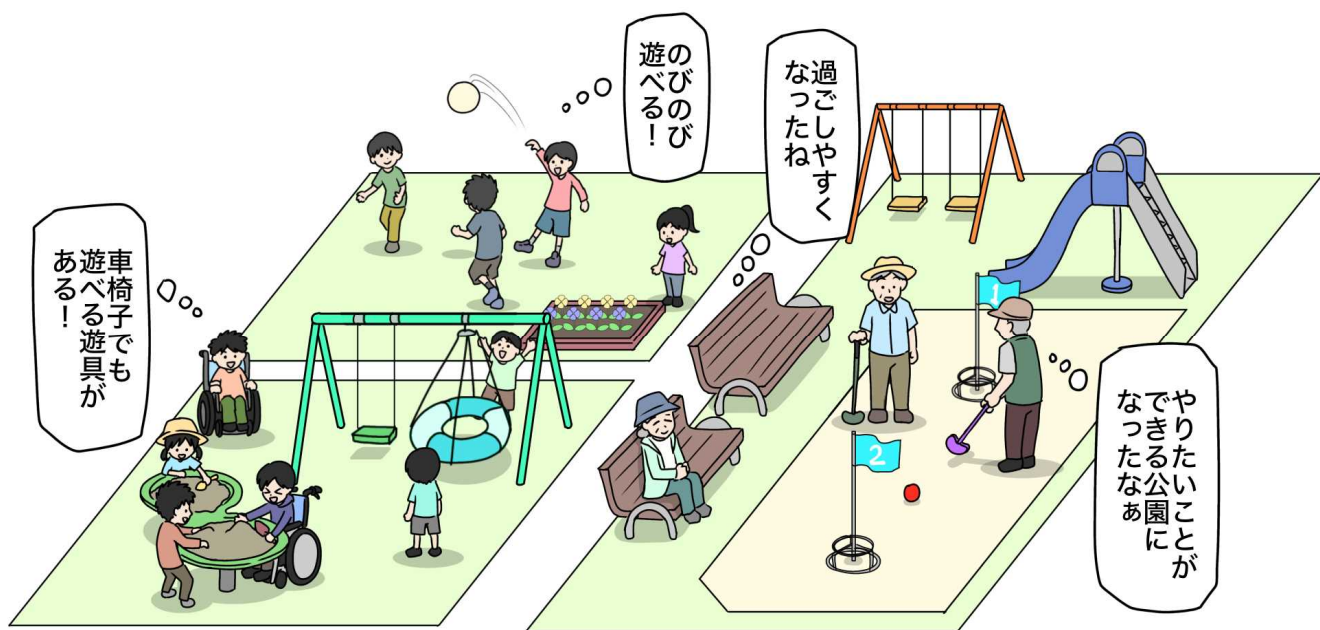
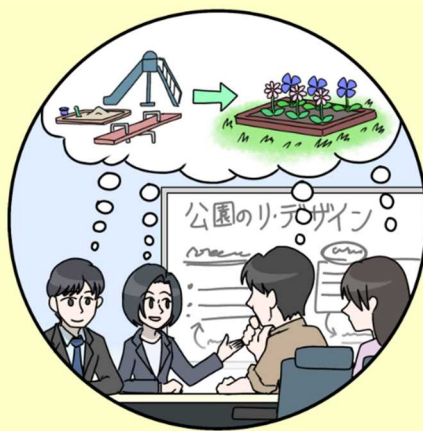
～みんなで考える公園のリ・デザイン～

京田辺市では「すぐそこに 緑とのふれあいを育むまち」をテーマに掲げて、緑のまちづくりを進めています。

身近な公園を、だれもが過ごしやすい場所になるよう、**地域のみなさん**で考えて公園をリ・デザインしてみませんか。

身近な公園を **“自分たちの思いを反映し、有効に使える”** ように、

地域のみなさん主体の『ワークショップ』で取り組みましょう。



1. はじめに

「この公園、こんな使い方できたらいいのに…」

みなさんは、お住まいの近くの公園を利用していますか？

- 子どもの遊び場として
- ジョギングやお散歩で
- イベント開催の場として
- 近所の方との交流の場として

公園は地域の皆さんが自由に使える大切な居場所です。

一方で、「こんな使い方できたら」「ここがもっと充実していたら」という思いをお持ちではないでしょうか？

この手引きは、そんな皆さんの「こんな公園になったらいいな」という思いを、地域のみなさんで行う話し合い(ワークショップ)を通じて、できることから形にしていけるためのものです。

現在、市内全ての都市公園に設置している看板



2. リ・デザインの背景・目的

公園のリ・デザインって、何ですか？

(1) 街区公園の現状

多くの街区公園は、高度経済成長期以降、開発により画一的な施設、内容で整備されてきました。

【現在の課題】

- 禁止ルールが多くて使いにくい
- 現代のニーズに合わない(子育て世代、高齢者、障がいのある方への対応不足)
- ベンチや日陰が少なく、休憩しづらい
- 遊具やベンチが老朽化してきた
- 樹木が生い茂って昼でも暗く、維持管理も大変 など

(2) リ・デザインの目的

公園のリ・デザイン(見直し・再整備)を通じて、以下のような公園を目指します。

- ✓ 利用者の思いに合った公園の使い方(役割分担)
- ✓ 誰もが快適で居心地のよい空間
- ✓ 地域のアイデアを一緒に形にする
- ✓ 地域コミュニティの中心となり、維持管理しやすい公園にする
- ✓ 壊れた施設を直して、使いやすい公園にする
- ✓ 樹木を剪定・間伐して、明るくて見通しの良い公園にする など

大事なことは、**地域のみなさんが意見やアイデアを出し合い、少しずつ合意形成を図りながら、より多くの人たちの「思い」を反映していくことです。**
市もサポートしますので、**地域のみなさんが主体となってワークショップを一緒に進めていきましょう！**

3. なぜ「ワークショップ」で進めるのか？

ワークショップってなに？

ワークショップ = 様々な立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いに学び、一緒に考える場です。

なぜワークショップが必要ななの？

従来の方法	ワークショップ方式
市役所が企画して、住民に提示	住民と市役所の『協働』となる
市役所からの説明・情報提供	双方向・多方向の対話ができる
市民の声を十分に反映しにくい	市民のニーズがしっかり反映される
完成した後、ちょっと違ったと感じることも	計画段階から市民の意見を反映できる
利用者のニーズとは一致しない部分も	整備後に利用が増える

ワークショップのメリットは？

いろいろなメリットがあります
① 参加者同士の思いや気づきを共有できる
② より実現性の高い計画ができる
③ できた公園への愛着が深まる
④ 完成後、自分たちで管理・運営する意欲が生まれる

4. ワorkshopはどのようにやって進めるの？

【進め方の全体像】

- ・地域のみなさんが主体です。まず地域みなさまから、公園をより良くしたい！という参加意向を募ります。
- ・参加意向のあった地域の中から、市で優先順位を整理したうえで、活動をスタートします。



- ・市から派遣するファシリテーター(進行役)や必要に応じて、市の職員も参加して、地域のみなさんの話し合い(ワークショップ)を支援します。
- ・ワークショップを通じて、自治会等で納得を得られた内容で、市と地域で調整のうえ、公園利用のルールの見直しなどを進めます。
- ・維持管理や運営にも積極的に取り組む地域、また遊具等が老朽化した公園については、市で予算の確保に取り組み、予算が確保でき次第、必要な整備を進めます。



【具体的な進め方】

① 参加メンバーを募ります

- ・どういったメンバーで話し合うか、参加者を募り、会場の準備をお願いします。
- ・例えば、子ども会など、実際に公園を利用されている方、自治会役員・清掃ボランティアなど維持管理をされている方に参加いただくことで、具体的な意見が集まります。

② ワークショップ(話し合い)をします

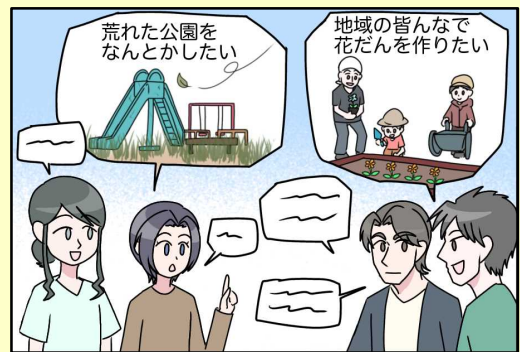
- ・お互いの意見を尊重することをルールとして、自由に意見を出してもらいます。
- ・全部で3回程度開催、1回あたり1~2時間を目安に、次のように話し合いを進めます。
- ・市から派遣するファシリテーターや必要に応じて市の職員も参加し、みなさんを支援します。

【 ワークショップで大切にしたいルール 】

- ①楽しく参加しましょう ②他の人の意見も認めましょう ③人のアイデアに乗っかりましょう

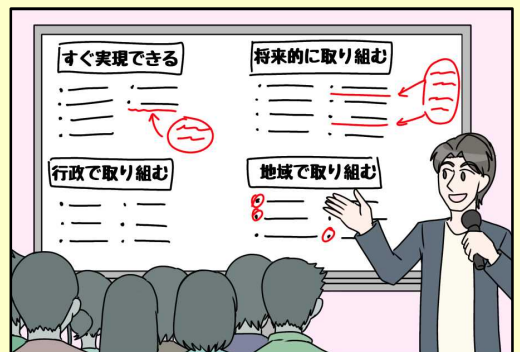
■ワークショップ1回目

- ・テーブルごとに、グループに分かれます。
- ・各グループの中で、進行役、記録係を決めます。
- ・公園にどんな問題があるのか、どんな利用がしたいのか、各グループで自由に話し合います。
- ・最後に意見を発表して、他のグループと共有します。



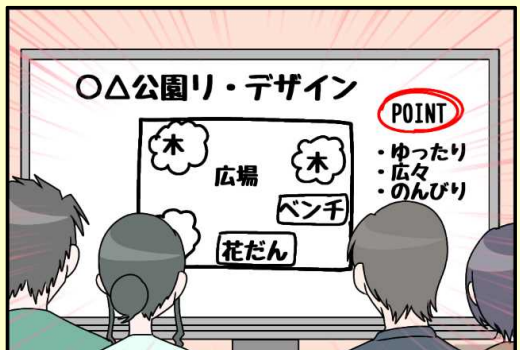
■ワークショップ2回目

- ・1回目の意見を市で整理して、公園全体のコンセプト(案)を提示します。
- ・意見の内容を「すぐに実現できること」「将来的に取り組むこと」「行政で取り組むこと」「地域で取り組むこと」に分けて整理し、説明します。
- ・各グループで、自由に話し合います。
- ・最後に意見を発表して、他のグループと共有します。



■ワークショップ3回目

- ・2回目の意見を市で整理して、公園の未来像(案)を提示します。
- ・全体で、修正点などを話し合います。
- ・リ・デザイン後の運用や整備のイメージをとりまとめるとともに、地域で議論を続けていくことを共有します。



③ 京田辺市 と 地域 それぞれが行動します！

- ・ワークショップで整理した内容をもとに、地域でできることは、できることから取り組み、市の調整や予算が必要なことは、必要性や優先度を共有しながら進めていきます。

【参考】 公園利用のアイデア集

さまざまな公園利用のアイデアを実現しましょう！

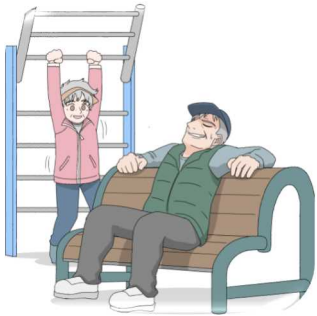
ハード面のアイデア例



花を植えて居心地のよい空間をつくる



障がいの有無に関わらず一緒に遊べる公園にする



高齢者向けに健康づくりの公園にする



花壇を整備して植物を育てる

ワークショップでの話し合いにより、地域で公園を有効に使えるアイデア例を、参考に示します。



ソフト面のアイデア例



フリーマーケットを企画して、開催する



地域で場所を決めてボール遊びを楽しむ



ルールを定めて親子で花火を楽しむ



子育てグループが外遊びを楽しむ



グループのイベントでヨガを楽しむ



地域の防災訓練に公園を活用する

【参考】 ワークショップってどんな雰囲気？

試験的にワークショップを行いました！

- 令和7年度にモデル公園に選定した「山手東地域」の「もくもく公園」でワークショップを行いました。
- 参加いただいた地域住民の方より、多くの意見が出ました。
- 市が意見整理をお手伝いして、更新遊具の選定や休憩場所の整備、公園利用のルール
の意見とりまとめなど、地域と力を合わせて将来の姿が共有できるよう取り組みました。



地域のみなさんと
市職員と一緒に話し合いました



意見交換がしやすいように
グループに分かれました



みなさんの意見をまとめて
整理しました



子ども会と一緒に現地を見学して、意見交換も行いました



公園のリ・デザインの手引き(本編)

京田辺市建設部公園緑地課
〒610-0393 京都府京田辺市田辺 80
TEL (0774) 63-1122(代表)